

<研究主題> すべての児童が「わかる・できる」授業づくりをめざして

1 研究の構想

(1) 研究のねらい

これまで、すべての児童が「わかる・できる」と実感できるような授業の在り方について試行錯誤しながら取り組み、実現したいと努めていることである。本研究は、それぞれの教員が取り組んできたことを整理し、より効果的な方法について学び、授業のユニバーサルデザイン化の基本理念や手法を広め、実践につなげていくことがねらいである。

通常学級の中には、発達や学び方の障害の特性がある児童も一斉に授業を受けている。支援が必要な子供に対しては、そのニーズに応じたサポートを行ってきている。そのサポートをクラス全体に広げることにより、特別に支援が必要な児童だけではなく、すべての児童にとって、学びやすい環境、わかりやすい授業になっていくと考える。どのような方法や手立てを行えばよいかを具体的に検証する場を職員全体で共有し、実践を重ねることで、その有用性を実感できるような研究を進めていく。

(2) 研究の仮説

ユニバーサルデザインを取り入れた学習を通して、「わかる」「できる」を体験することによって、主体的に学習に取り組む態度が育つのではないかと。

そのために、以下の2点について特に考えていきたいと考えた。

- ① 「場の構造化」や「ルール明確化」を進めることにより、子供たちの学習効率を高め、落ち着いて学習にとりくめるのではないかと。
- ② 「視覚化」「焦点化」「共有化」の三つを柱とするユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを進めることにより、どの子も等しく「わかる」「できる」授業にすることができるのではないかと。

=本校の授業のユニバーサルデザイン化イメージ=

上の仮説を具体的にイメージするため、本校の研究のイメージを共有するために、以下のような資料を提示した。